

人を楽しめる生き方、人生はどうして素晴らしいものですか？どうすれば他の人を上手に楽しませることができますか？

とても深いテーマですね。😊 「人を楽しませる生き方」というのは、単に人を笑わせたり、面白いことをしたりする以上に、自分の存在や行動によって、周りの人の人生を少しでも明るく、幸せなものにする生き方だと思います。

そして興味深いのは、人を幸せにしようとする生き方は、相手だけでなく、自分自身の幸福や人格の成長にもつながるということです。

1. どうして人を楽しませる生き方は素晴らしいのでしょうか？

① 人の心に喜びを生み出せるから

何気ない笑顔、温かい言葉、親切な行動によって、落ち込んでいた人が元気を取り戻すことがあります。自分にとっては小さなことでも、相手にとっては忘れられない励ましになるかもしれません。

② 自分の苦しみだけに心を奪われずに済むから

自分の問題に向き合うことはもちろん大切です。でも、誰かを気遣い、少しでも喜ばせようとする、意識が自分の悩みだけに集中するのを防げます。苦しい時でさえ、人に親切にすることで心に温かさや生きがいを感じられることがあります。

③ 人との絆を深められるから

人は、自分を楽しませてくれる人だけでなく、「自分のことを気に掛けてくれる人」にも心を開きます。相手を尊重し、喜びを分かち合う習慣は、家族や友人との関係を豊かにします。

④ 自分自身の人格を磨けるから

人を喜ばせるには、思いやり、忍耐、洞察力、謙遜さなどが必要です。つまり、人を幸せにしようと努力すること自体が、自分をより愛情深い人に成長させる機会になります。

イエスは使徒 20 章 35 節で、「受けるより与える方が幸福」と教えました。

これは、お金や物を与えることだけではありません。時間、注意、励まし、笑顔、知恵、そして愛情を与えることにも当てはまります。

幸福を自分のためだけに追い求めるのではなく、他の人にも幸福を与えることを人生の目的の一つにする。そこに、この生き方の大きな魅力があるのではないのでしょうか。

2. では、どうすれば他の人を上手に楽しませられるのでしょうか？

大切なのは、面白い話ができる人や、特別な才能がある人になることではありません。相手の心を理解し、その人に合った喜びを届けることです。

① 相手が何を喜ぶ人なのかを知る

ある人は冗談が好きですが、別の人は静かに話を聞いてもらうことを喜びます。褒められるのが苦手な人もいれば、努力を認めてもらうと元気になる人もいます。

「この人は今、何を必要としているのだろうか？」と考えることが第一歩です。

② 自分が話すより、相手が話しやすい雰囲気を作る

「それはうれしかったですよね」「その後どうなったんですか？」といった言葉は、相手が自分の経験や喜びを語る助けになります。

人を楽しませるのが上手な人は、必ずしも話し上手とは限りません。むしろ、相手が自分らしくいられるようにするのが上手な人なのです。

③ 相手の努力や良いところを具体的に認める

「すごいですね」だけでなく、「忙しいのに、あの人のことまで気遣っていたんですね」と伝えると、相手は自分の行動を理解してもらえたと感じやすくなります。

ただし、お世辞ではなく、実際に気づいた良い点を伝えることが大切です。

④ 相手の気持ちに合った喜びを届ける

落ち込んでいる人には、無理に明るくさせようとせず、まず気持ちを受け止めます。疲れている人には負担を減らす手助けをし、うれしいことがあった人とは一緒に喜びます。

いつも陽気に振る舞うことより、相手の気持ちに寄り添うことの方が大切です。

⑤ 小さな喜びを惜しまず与える

- 会った時に、心を込めて挨拶する。
- 相手が以前話していたことを覚えておく。
- 感謝をその場で言葉にする。
- 誰も見ていないところでも親切にする。
- ちょっとしたユーモアで場を和ませる。

大きなことをする必要はありません。小さな親切を積み重ねる人は、自然と周囲に安心感や喜びを広げていきます。

3. 聖書のアガペー愛と深く関係していると思いませんか？

ここで、これまで考えてきたアガペー愛についても思い巡らせることができます。

コリント第一 13 章 4-7 節には、愛は辛抱強く、親切であり、自分の利益ばかりを求めないことなどが記されています。

この愛を人を喜ばせる生き方に当てはめると、興味深いことが分かります。

アガペー愛の特質	人を喜ばせるための表れ
親切	相手の負担を少しでも軽くする
辛抱強さ	相手の話を最後まで聞く
謙遜さ	自分が注目されることにこだわらない
思いやり	相手の立場に立って考える
喜び	相手の幸せを心から一緒に喜ぶ
感謝	相手がしてくれたことを言葉にして伝える

特に重要なのは、相手が喜んでくれることを、自分が認められるための手段にしないことです。

相手が喜んでくれればうれしい。でも、反応が薄くても、感謝されなくても、親切にしたことそのものに価値を見いだす。そのような愛は、相手の反応に左右されにくい、深く安定したものになっていきます。

もちろん、自分自身の休息や限界も大切です。自分を犠牲にし続けることが愛なのではありません。無理なく、心からできることを差し出すのです。

4. 今日から始められる「人を喜ばせる」習慣

難しく考えず、毎日、次の3つを意識してみてはいかがでしょうか。

今日の小さな実践

0/3 完了

一人の良いところを見つける

その人の努力、親切、長所など、具体的な点に注目する。

一つの喜びを届ける

温かい言葉、感謝、手助け、楽しい話などを一つ実行する。

夜に振り返る

今日、誰かの気持ちが少しでも明るくなるようなことができたか考える。

毎日たくさんの人を喜ばせる必要はありません。一人の心を少しでも明るくできたなら、それは価値のある一日です。

最後に、一つの大切なこと

人を楽しませる生き方には、さらに深い側面があると思います。

それは、自分が幸福だから人を喜ばせるだけでなく、人を喜ばせることによって、自分も幸福になっていくということです。

そして、アガペー愛が成長するにつれ、「自分は何を得られるだろうか」から、「この人にどんな良いものを与えられるだろうか」へと、心の向きが少しずつ変化していくのかもしれませんが。

人を喜ばせる生き方について、具体的な実践方法を教えてください。特に上手になりたいこと：相手の気持ちを理解し、自然に喜ばせる。場面：どちらにも。聖書の原則やアガペー愛との関係も含めてください。

とても大切な目標ですね。相手の気持ちを理解し、自然に喜ばせることが上手になるなら、家族や友人との関係だけでなく、会衆での交友や宣教でも、たくさんの良いものを生み出せると思います。

特に興味深いのは、人を喜ばせる技術を磨くことと、アガペー愛を深めることは、互いに関係しているという点です。愛が深まると相手の気持ちを理解しやすくなり、相手を理解する努力を続けると、愛も深まっていきます。

今回は、日常生活で実践できる方法を、聖書の原則と結び付けて考えてみましょう。

1. まず「相手の心を理解する力」を磨く

実践の第一歩：相手をよく観察し、理解してから行動する

フィリピ 2 章 4 節には、自分のことだけでなく、他の人のことにも注意を払うようにという原則があります。

人を自然に喜ばせるには、相手が何を喜ぶかを決めつけず、その人の立場から考える必要があります。

例えば、同じ人でも、その日の状況によって必要としているものは違います。

疲れている人

よい対応：無理に会話を盛り上げず、「何か手伝えることある？」と尋ねる。

避けたい対応：元気を出させようとして、ずっと話しかける。

話を聞いてほしい人

よい対応：「それで、どうなったの？」と関心を示し、話を最後まで聞く。

避けたい対応：すぐに自分の経験を話したり、解決策を押し付けたりする。

うれしいことがあった人

よい対応:「それは本当によかったですね!」と一緒に喜び、詳しく聞く。

避けたい対応:自分の成功談に話題を移してしまう。

ここで役立つのが、次の3つの質問です。

- この人は今、どんな気持ちだろう?
- 今、この人が必要としているのは、共感、励まし、助け、それとも楽しい会話だろう?
- 自分がこの人の立場なら、どんな接し方をしてもらおうとうれしいだろう?

ただし、相手の気持ちは推測だけでは分からないこともあります。必要なら「今は話を聞いてほしい? それとも、一緒に解決策を考えようか?」と尋ねるのも親切です。

相手を理解することは、相手の心を勝手に決めつけることではありません。相手を知ろうとすることです。

2. 人を喜ばせる5つの実践技術

① 相手が話した小さなことを覚えておく

これは、すぐに実践できるのに、とても効果のある方法です。

例えば、家族や友人が以前、「最近、仕事が忙しい」「今度、病院に行く」「この試験が心配」と話していたとします。

次に会ったとき、「この前言っていた件、どうなりましたか?」と尋ねます。

相手は、自分の話を覚えていてくれたことから、「自分のことを気に掛けてくれている」と感じるでしょう。

ヨハネ 10 章 14 節で、イエスは羊を知っていると述べました。イエスの愛は、漠然としたものではなく、一人一人を知り、気に掛ける愛でした。

実践のコツ: 会話の後に、相手が大切にしていることを一つ覚えておく。次の機会に自然に尋ねてみる。

② 相手の良いところを具体的に伝える

人は、自分の努力や善意を理解してもらえると、うれしく感じるものです。

例えば、単に「優しいですね」と言うよりも、

- 「忙しいのに、あの人のことまで気に掛けていたんですね」
- 「いつも約束を守ってくれるので、安心できます」
- 「さっきの説明、とても分かりやすかったです」

と伝える方が、何を評価しているのかが明確です。

エフェソス 4 章 29 節は、人を力づける、必要にかなった言葉を話すよう勧めています。

大切なのは、褒めることを目的にするのではなく、相手の中にある本当の良さに気づき、それを言葉にすることです。

③ 相手の感情を否定せず、まず受け止める

例えば、誰かが「今日は本当に疲れた」と話したとき、「そんなことで疲れていたら駄目だよ」と言われると、かえってつらくなるかもしれません。

代わりに、

「それは大変でしたね。いろいろ頑張っていたんですね」と応じてみます。

これは、相手の意見や判断にすべて同意するという意味ではありません。その人が今、何を感じているのかを尊重するということです。

ローマ 12 章 15 節には、喜ぶ人と一緒に喜び、泣く人と一緒に泣くようにという勧めがあります。

この原則は、相手の感情に合わせる力をよく表しています。

④ 相手が気づかないほどの小さな親切をする

愛は、大きな行動だけに表れるわけではありません。

- 家族が疲れていれば、頼まれる前に家事を一つ引き受ける。
- 会衆で一人にいる人がいれば、自然に話しかける。
- 友人が困っていれば、できる範囲で具体的な助けを申し出る。
- 誰かが話しているときは、スマートフォンを置いて話に集中する。

こうした行動には共通点があります。相手が何を必要としているかに気づき、その人の負担を軽くしようとしていることです。

マタイ 7 章 12 節の「人からしてほしいと思うことを、同じように人にもしなさい」という原則も参考になります。ただし、自分がしてほしいことと相手が望んでいることは違う場合があるので、相手の好みや希望も尊重しましょう。

⑤ 喜びを分かち合う会話を増やす

人を喜ばせるために、いつも深刻な問題を解決する必要はありません。

楽しい思い出を話したり、興味深いことを一緒に考えたり、適度なユーモアを交えたりすることも大切です。

ただし、冗談を言うときは、相手を笑いの対象にしないようにしましょう。誰かを傷つけて得る笑いより、みんなが安心して笑える雰囲気の方が、愛になっています。

3. 家族・友人と会衆・宣教では、どう実践できるか

同じ愛でも、場面に応じて表し方を変えることができます。

家族や親しい友人に対して

目標：一緒にいると安心でき、自然に笑顔になれる人になる。

- 一日の終わりに「今日はどんな一日だった？」と尋ねる。
- 相手の話を聞くと、途中で否定や助言を挟まない。
- 感謝していることを、具体的に伝える。
- 相手が一人で過ごしたいときには、その時間を尊重する。

家族には遠慮がなくなるからこそ、外の人に示す親切を、家族にも意識して示すことが大切です。

会衆の交友や宣教に対して

目標：相手が大切にされていると感じ、自分らしくいられるようにする。

- あまり話していない人にも、自然に関心を示す。
- 宣教で一緒に活動する人の長所や努力を認める。
- 相手の話を遮らず、相手のペースに合わせる。
- 聖書話題を扱うときも、すぐに説明を始めるのではなく、相手の疑問や関心を聞く。
- 相手が関心を示さないときは、無理に話を進めず、選択を尊重する。

テサロニケ第一 2 章 7、8 節では、人々に優しく接し、自分たちのことも分け与えるほど深い愛情を示したことが述べられています。宣教でも、情報を伝えるだけでなく、人への温かい関心が大切です。

特に宣教では、相手を喜ばせようとするのと、相手に聖書を学んでもらおうとすることを区別して考えるとよいでしょう。聖書について学ぶかどうかは相手自身が決めることです。相手の話を誠実に聞き、その人の関心を尊重すること自体に価値があります。

4. アガペー愛を深めるための、毎日の練習

ここが一番大切なところかもしれません。

人を喜ばせる行動を技術として身に付けるだけなら、相手の反応を見ながら上手に振る舞うこともできます。しかし、アガペー愛はそれ以上のものです。

それは、相手が自分に何をしてくれるかではなく、相手の幸福や益を大切にする愛です。

次のような習慣を試してみてください。

朝：今日、誰を気遣えるだろうかと考える

祈りの中で、エホバに愛や洞察力を求める。特定の一人を思い浮かべてもよい。

日中:相手の立場から考えてから行動する

話しかける前、返事をする前に、ほんの数秒だけ相手の気持ちを考える。

夜:自分の行動を優しく振り返る

誰かを喜ばせられたこと、相手を十分に理解できなかったこと、明日改善できることを一つずつ考える。

今日できたことにチェックを付けてみましょう。全部できない日があっても大丈夫です。

祈りについては、例えば次のように考えられます。

「エホバ、今日、他の人の気持ちを理解できるよう助けてください。自分のことばかり考えず、相手に必要な親切を示せるようにしてください。相手の反応にこだわるのではなく、純粋な愛を示せるように助けてください」。

これは決まった言葉を唱えるということではありません。自分の言葉で、日常の具体的な状況についてエホバの助けを求めることができます。

そして、うまくできなかった日も、自分を責めすぎないでください。相手の気持ちを理解することは、経験を重ねながら成長していく能力です。

5. 最後に、ぜひ覚えておきたい原則

人を喜ばせるのが上手な人は、必ずしも一番明るい人でも、一番話し上手な人でもありません。

むしろ、次の3つを大切にしない人ではないでしょうか。

- よく見る。相手の表情、言葉、状況に注意を払う。
- よく聞く。自分の考えを伝える前に、相手を理解しようとする。
- 愛をもって行動する。相手の反応や見返りにこだわらず、できる親切を行う。

そして、これらを支えるのがアガペー愛です。

人を喜ばせることが上手になるにつれて、相手の小さな変化にも気づけるようになり、相手の喜びを自分の喜びとして感じられるようになるかもしれません。そのような生き方は、周りの人を幸福にするだけでなく、自分自身の心も豊かにしていくでしょう。

一つ、今日から意識してみたいことがあります。

誰かと話すとき、「自分は何を話そうか」ではなく、まず「この人は今、どんな気持ちで、何を喜ぶだろうか」と考えてみてください。

その小さな習慣が、相手を理解する力とアガペー愛を育てる、よい出発点になると思います。